

青丘文庫研究会月報

No.276
2014年11月1日

青丘文庫研究会 〒657-0064 神戸市灘区山田町3-1-1 (財)神戸学生青年センター内
 TEL 078-851-2760 FAX 078-821-5878 <http://ksyc.jp/sb/> e-mail hida@ksyc.jp
 ①在日朝鮮人運動史研究会関西部会 (代表・飛田雄一)
 ②朝鮮近現代史研究会 (代表・水野直樹)
 郵便振替<00970-0-68837 青丘文庫月報>年間購読料 3000円
 ※ 他に、青丘文庫に寄付する図書の購入費として 2000円／年をお願いします。

<巻頭エッセイ> ウリボンマル 佐野通夫



東大阪を拠点に在日朝鮮人の歴史を劇で表現している「劇団タルオルム」という劇団があります。2010年の第5回公演「金銀花永夜ークムンファヨンヤー」を見ると、登場人物が「日本語の用言+イムニダ、イムニッカ」形で話しています。朝鮮語の分からぬ観客のためにそうしているのかと思っていたら、私のゼミ(3年、4年)に連続して朝鮮高校卒業生が入ってきました。しかも同じ運動部の先輩後輩です。これまで1年おきの入学だったので、先輩後輩が一緒になることはありませんでした。すると、後輩が先輩に対してこの「日本語の用言+イムニダ、イムニッカ」形を使うのです。朝鮮語の本なら、僕よりはるかにじょうずに読む学生です。4年生の方は4年生で、前に高校の先生にメールをするとき、「朝鮮語だったら書けるけど、日本語で敬語を使って書くのは難しい」と言っていました。4年生同士で話すときも自称はナです。

ある在日朝鮮人組織の結成20周年記念レセプションに招かれて、参加者百数十人の中で日本人は8人ほどの場で、「今日は日本のお客さんもいらっしゃるので日本語で進行します」という前置き(朝鮮語)の後、日本語で進行しました。朝鮮人参加者の一人が、「10周年の時なら、日本人客のそばに通訳を立てて、朝鮮語で進行していただろう」と言っていました。実際、初代会長のご挨拶は朝鮮語でした。

中国朝鮮族の学生同士が漢語で話すので、なぜ朝鮮語で話さないのかと尋ねると、「朝鮮語だと相手との関係(敬語)を考えなければならないのがめんどうくさい」という返事でした。今から30年ほど前、アメリカ合衆国の中日系人(一世)を訪ねたとき、「ここの人たちはすぐスー(sue、裁判)するというのですよ」という言い方をしていたのが印象的でした。私の子どもたちも、親は香川と全く関係ない土地の出身ですが、保育所、学校で育つて、完全な讃岐弁を話します(一人は大学から6年、関西に住んで、いさか関西弁が入ってきました)。

前に言語学の先生になぜこんなにいろんな言葉があるのだろうというようなことを尋ねたとき、「言葉は簡単に変わりますよ。山を一つ越えただけでも、変形していることがあります」というような返事をもらいました。カザフスタンに行ったとき、カレイスキー(高麗人)の言葉が聞き取りにくかったのですが、僕がもう少しロシア語を分かっていたら、理解できた部分もあったかも知れません(古い北部朝鮮語方言がもとになっていることや、僕自身の朝鮮語力自体の問題もあるのですが)。

フィリピン人母、日本人父の子が、例えば自動車をぶーぶーというような日本語の幼児語を知らないことに出会ったときに、僕と同じ世代（還暦世代）の在日朝鮮人二世の多くが朝鮮語の幼児語を知らないことと対比して、一世はいかに朝鮮語を殺して、日本語で生きてきたかを感じたことがありました。

周囲の多数者の言語の持つ圧倒的な力の中で、朝鮮語を保ってきた朝鮮学校。その朝鮮学校がいまつぶされようとしているという危機感を私は持っています。

*「ウリボンマル」とは「ウリマル（朝鮮語）」と「イルボンマル（日本語）」を合わせて、在日朝鮮人の使っている言語を示す言葉だそうです。

第351回在日朝鮮人運動史研究会関西部会（2014年7月13日）

私は日本の風土に合ったものとして、 在日コリアンのチエサの継承について

李裕淑



在日コリアンの多くが儒教的なチエサ（祭祀）を行っている。宗教上の問題や理由があつてすべての在日コリアンがチエサを行っているのではないが、チエサは在日コリアンの文化だと言える。しかし、チエサは家庭内で行われるものなので、どのように継承されているかは社会的に知られていない。

在日コリアンのチエサは在日コリアン社会を取り巻く環境の変化や、在日コリアンが晒されている日本社会の葬礼文化の影響を受けて変容しやすい状況にある。一世は自分たちが故郷で行っていた記憶にもとづいてチエサを行ってきた。解放直後は在日コリアンの居住地区も多くあり、その中のコミュニティ内で故郷と同じようなチエサを行うのが可能であった。また、チエサを知らない在日コリアンも親族内の年長者や同郷の年長者などに仕切ってもらってチエサを行うことが出来た。

一世が減り、在日コリアンも居住地区から移転して共同体が小さくなり、チエサのやり方を知らない人々も増えた。

韓国では学校でチエサについて教える時間があり、名節（ミョンジヨル）などの時期には新聞やマスコミにチエサの話題が上る。しかし、日本に住む在日コリアンは家庭内でチエサをしない場合はチエサについて知る機会がない。また、チエサをする家庭でも年に2～4回だけチエサに触れるだけの場合はチエサの手順をしっかりと覚えていない場合も多い。家庭内でチエサを教えて行かなければ途絶えやすい。

このような環境のなかで在日コリアンのチエサを継承しようという努力もなされてきた。例えはチエサについての書籍を出版し、チエサの儀式を撮影したビデオを制作して、在日コリアンに広めようとする動きがあった。それらについて考察した。

在日コリアン二世三世の時代になり、民族団体が民族の冠婚葬祭を伝える役割を担うことも増えた。そのため、朝総連支部委員長や民団支部委員長たちは冠婚葬祭についての書物を買い求めたという。

最初は在日コリアンが出した書籍は出版されていなかったので、韓国の明星出版社の文明奎編『新生活家庭大宝鑑』（1976年）を参考にしたようだ。本書には1969年1月16日法令第2079号、改定1973年3月13日法令第2604号の「家庭儀礼に関する法律」が載せてある。

この法令は婚礼、葬礼、祭礼、回甲宴（還暦宴）から虚偽虚式を一掃して儀式を合理的にして浪費を抑制し、健全な社会気風を盛んにすることを目的にしている、として、チエサの簡素化を目的としたものであった

(『新生活家庭大宝鑑』35ページ)。

チエサは2代まで、チエサの式順も省略し、祭需(供え物)も簡素にすることとしている。チエサを2代祖までにすることは在日コリアン社会にも影響を及ぼした。それまでは5代祖までするとされていた。

朝総連の傘下団体である朝鮮新報社からは、民族文化研究所編の『同胞家庭禮節』(1992年)が出版されている。この書はハングルで書かれており、382ページにわたって家族内の礼儀、婚礼、葬礼、祭礼、還暦や式にはどのように挨拶するべきかについてや、民間名節の説明などが記載されている。

家族間の接し方について書かれている26ページには、『朝鮮民主主義人民共和国家族法』第3章「家庭」の部分が抜粋されて記載されている。政治色がある本である。

同じく朝総連の傘下団体である在日本朝鮮民主女性同盟の岡山県倉敷支部玉島分会は『ウリナラの冠婚葬祭』という冠婚葬祭の手引き書を作った。この本は現在、鶴橋の豊田商店で販売されている。

その後、『同胞冠婚葬祭マニュアル』(朴禮緒、朝鮮新報社、1998)が出版された。2000年現在、第3刷が発行されている。日本語で138ページにわたって書かれており、絵やエピソードなども添えられていて分かりやすい本になっている。

1988年に記録ビデオ「チエサ—民族の祈り」が制作された。制作者の金昌寛はチエサ何かと疑問を抱いていたことからビデオを制作しようと思ったという。

在日コリアンを取り巻く環境も大きく変わり、チエサに対する思いや価値観も変化してきた。チエサの祭祀形式も変容し、簡略化している。親族や家族が集まることに重きを置いて、チエサがお食事会になってきている状況は否めない。このような状況で在日コリアンがチエサを引き継いで行くためには、家庭内で年長者からの教えを受けて、供える料理や膳の位置など細かい作法や、手順を覚えなくてはならない。しかし、在日コリアンも忙しい現代社会の中で生き、核家族化している状況では、それを学ぶ機会を得るのは難しい。教えてくれる在日コリアン一世も少なくなった。そのため、在日コリアンは書籍や記録映像などを参考にしている。日本で出版された祭祀についての書籍が在日コリアンにとって自分たちの文化を知り、引き継いでいく上で大切である。これからもチエサを守り引き継いでいこうとする在日コリアンたちは書籍を参考にしていくと考えられる。そして、書籍に書いてあることをそのまま実践するのではなく自分たちの環境や状況に合わせて取捨選択して、変容させていくと考えられる。

(『在日朝鮮人史研究』44号、2014.10所収論文参照)

<新刊案内>

在日本朝鮮人運動史研究会編『在日本朝鮮人史研究44号』

(2014.10、A5、160頁、2592円、緑蔭書房刊)

※特価2000円で販売します。購入希望者は、送料(164円)とも2164円を郵便振替<00970-0-68837 青丘文庫月報>でご送金ください。以下、目次。

一九三〇年代以降の在阪朝鮮人教育—内鮮「融和」教育から「皇民化」教育へ 塚崎昌之
経済史的にみた朝鮮人の渡航について—なぜ朝鮮人は来日したのか? 李光宰

在日朝鮮人の日本人妻 尹健次

在日コリアンのチエアの継承について—チエサの書籍やビデオをもとに 李裕淑

在日コリアン高齢者一世の生活史—特別養護老人ホーム

「故郷の家・京都」におけるインタビューから 西田知未

故許壹昌先生を偲ぶ／振り返って思うこと 三田登美子／許壹昌

会の記録（二〇一三・九～二〇一四・七）

＜案内＞

- 鄭鴻永『歌劇の街のもうひとつの歴史—宝塚と朝鮮人』（神戸学生青年センター出版部、1997.1、1800円）長らく在庫切れでしたが、この度、増刷しました。購入希望者は、1800+税 144+送料 164=2108円を下記郵便振替でご送金ください。折り返し送本いたします。<01160-6-1083 公益財団法人神戸学生青年センター>
- 朝鮮史セミナー『北方部隊の朝鮮人兵士～日本軍に動員された植民地の若者たち』（同名の本は、現代企画室、2014.3、3024円）講師：北原道子さん（歴史研究家、在日朝鮮人運動史研究会会員）／日時：2014年11月14日（金）18:30／会場・主催：神戸学生青年センター TEL 078-851-2760
- 土曜ランチサロン、第2回11月15日（土）11:30～12:00「ソウル歴史散歩—チョンノ交差点付近」（足立龍枝さん、むくげの会会友）、会場：神戸学生青年センター・キッチン付会議室、参加費：無料、持ち物：お弁当（お味噌汁は学生センターで用意します）
- 神戸・日本軍「慰安婦」パネル展 11.16（日）14:30～20:00&11.17（月）10:00～20:00、こうべまちづくり会館 078-361-4523、講演会 11.18（火）18:30、講師：藤永壯さん、会場：学生センター
- 映画「ジョン・ラーベ～南京のシンドラー～」六甲上映会、12.9（火）18:00、1000円、神戸学生青年センター、主催：神戸・南京をむすぶ会 <http://ksyc.jp/nankin/>

●青丘文庫研究会のご案内●

■オプショナルツアー「伊藤博文と湊川神社」11月9日（日）午後2時、湊川神社南入口集合

伊藤博文が寄進した石灯ろうを見学します。（案内、足立龍枝）

■第354回在日朝鮮人運動史研究会関西部会 2014年11月9日（日）午後3時～5時

「李承晚政権の在日コリアン国民登録政策研究（1948年から1953年まで）」 閔智煥

※会場 青丘文庫（神戸市立中央図書館内、TEL 078-371-3351、新館3階で身分を証明するものにして入館証を受け取り4階会議室にお越しください。）

※※12/14研究会の前にく神戸のドヤ街フィールドワーク>タカハシノブオが生きた街を歩く一、9:00～12:00、集合：8:50JR神戸駅コンコース（「やすらぎの泉」（水飲み場モニュメント）前、コース：神戸駅→新開地本通周辺→湊町、佐比江町、西出町、東出町→東川崎町→港湾寮、タカハシノブオが住んだドヤ跡だけでなく現在のドヤの実態や街の姿を見ていきます。案内：鷺本（はしもと）郁（NPO法人神戸の冬を支える会）、参加料：無料、参加申込：hida@ksyc.jpまで。

【今後の研究会の予定】来月以降の予定。12月14日、在日（黒川伊織）、近現代史（田中隆一）。研究会は毎月第2日曜日です。報告希望者は、飛田または水野まで。

【月報の巻頭エッセイの予定】12月号以降は、吉川絢子、安致源、伊地知紀子、太田修、高正子、坂本悠一、全淑美、足立龍枝、渡辺さえ、池貞姫、張允植、横山篤夫、松田利彦、西村寿美子、玄善允、川口祥子。よろしくお願ひします。締め切りは前月の10日です。